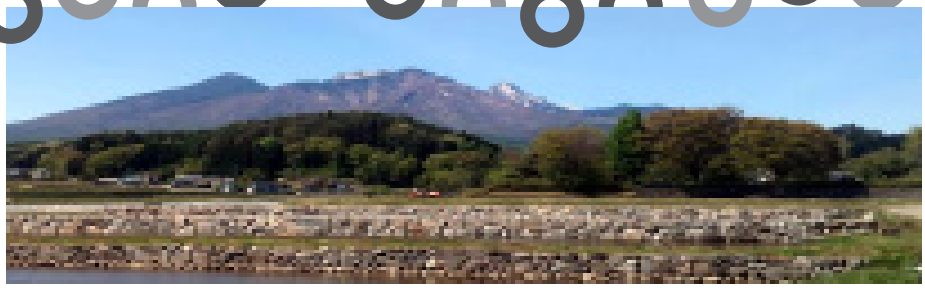
会員さんってどんな人？



八ヶ岳。手前の左の小山は谷戸城址、右の森は縄文の金生遺跡

山梨県北杜市

馬場 悦子 さん

Q 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

A 1952年、サンフランシスコ平和条約が発効した年に、まだ畑が残る東京都練馬区で生まれました。

物心がつく頃の暮らしは、燃えるごみは五右衛門ぶろの風呂焚きで燃やし、生ごみは庭に穴を掘って土に還していました。トイレはボットンでその肥えを、親が「おいしい柿がなるよ～」と、庭の柿の木の周りに埋めていたのを覚えています。プラスチックがない時代でした。そんな暮らしが私の原点です。

Q ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

A 食に関心があって生協の委員をしていた頃でした。毎年子どもたちと川遊びを楽しんでいるすぐ近く、日の出町にあるごみの最終処分場の遮水ゴムシートが破れ、汚水が漏れ出していると知り衝撃を受けました。

1994年に小平市で映画「水からの速達」の自主上映会を開催し、その仲間たちとごみについて考える市民団体「小平・環境の会」を立ち上げました。

Q ごみかんに入会してくださったきっかけは？

A 1997年、ドイツの環境保護連盟ブントのシュルツさんの講演会に参加したことがきっかけです。

Q ごみ問題に関わること以外で、趣味や生きがいは？

A 2012年から東京都小平市と山梨県北杜市に二ヶ所居住を始めて、2018年からは山梨にほぼ定住しています。

家のすぐ横に100坪弱の畑を借りて、念願だった 虫も草も敵にしない 自然農（もどき）を楽しんでいます。夏場はきのこ以外の野菜は自給できるようになりました。お米は、手伝っているエコファームから一年分いただいています。

30年以上続けている味噌づくりに使う大豆も畑で作るようになりました。冬場の野菜の自給率を上げることと、エネルギーの自給が今後の目標です。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 山梨へ来て最大の収穫は、八ヶ岳山麓に広がる縄文文化のすばらしさに出会ったことです。近隣の博物館で、巨大で躍動的な土器や国宝の土偶「縄文のビーナス」等と対面し、その芸術性の高さに、学校で学んだ縄文のイメージが根底から覆されました。

縄文時代は、食べ物を確保したり生活のために働くのは1日4時間程度で、あとは土器を作ったり哲学？したり。そんな平和で楽園のような暮らしが日本列島で1万年以上も続いたということに驚愕です。

また、こちらに来て意識改革を促されたのは、収入を得るための労働はしつつ、野菜・米をほぼ自給し肉は狩猟された鹿の肉等をもらい、不用品を譲りあい、モノや家が壊れたら自分で修理し、近隣の人と協力して道の整備をするといった、貨幣経済だけに頼らない暮らしをひょうひょうと実践している人たちの存在です。

人間の底力というか、たくましさを再認識しました。我が家でも何かあった時、玄米と自家製味噌と野菜が少しあれば、そして近くに仲間がいれば、何とかやっていけるかなと思うようになりました。縄文時代まで遡らなくても、少し前まではそんな暮らしが普通だったかもしれません。生きていく上で必要なものは何か、改めて見直しています。

Q ごみかんに期待したいこと、提案したいことはありますか？

A 東京で開催される講演会などにはなかなか参加できなくなりましたが、「ごみっと・SUN」で、山梨にいながら最新のごみ情報や報告を得ることができて嬉しいです。

ごみであふれるこの星をどう浄化していけるのか、考えるヒントを頂いています。